

第10節 連携の可能性と必要性

1. 商店街の連携の現状

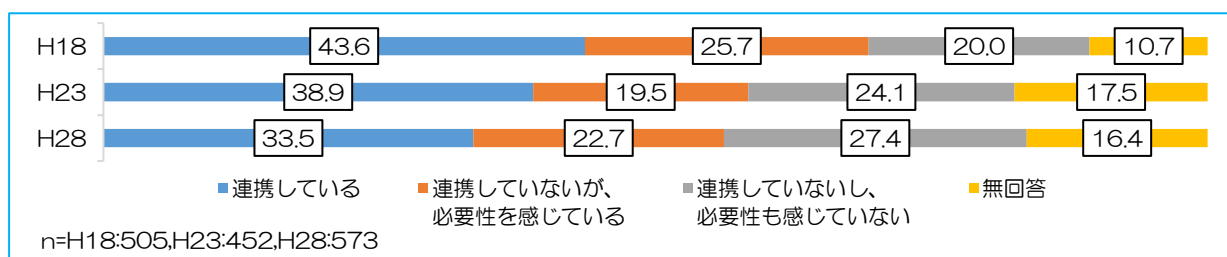
商店街の後継者不足、新たな担い手の不足などを補完し、地域住民のニーズに対応した取組や安心・安全などの取組を行うためには、地域の各団体等との連携促進がますます重要な課題となっています。

商店街の連携先として真っ先に考えられるのは、他の商店街です。図表 2-10-1 を見ると、連携している商店街の割合が低下していることがわかります。また、「連携していないし必要性も感じていない」と回答した商店街が増加しています。

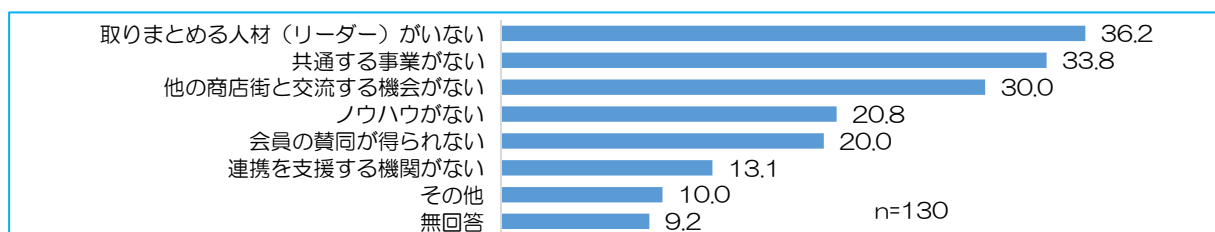
他の商店街との連携を阻害している理由としては、図表 2-10-2 のとおり、「リーダーがない」「共通する事業がない」などが挙げられています。

また、商店街活動の新たなパートナーとして、NPO 法人が期待されています。図表 2-10-3 をみると、NPO 法人等と連携した活動を行っている商店街の割合が増加しています。連携した活動を「行っている」と「今後行っていきたい」を合わせると過半数となり、今後ますます関係性は強まっていくものと思われます。

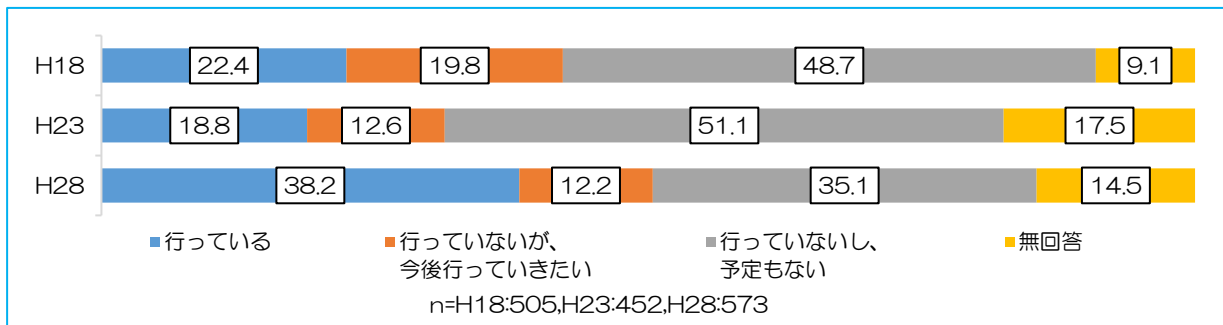
図表 2-10-1 他の商店街との連携（単位：％）



図表 2-10-2 他の商店街との連携を阻害している要因（単位：％）



図表 2-10-3 NPO 団体、町内会や地域のサークル等と連携したコミュニティ活動（単位：％）



2. 商店街の連携に関する情報分析

(1) NPO 団体、町内会や地域サークル等との連携

NPO 団体、町内会や地域サークル等とのコミュニティ（共同）活動を行っている商店街は、今後さらに連携を深めたいと考える傾向にあります。一方、NPO 団体、町内会や地域サークル等とのコミュニティ活動を行っていないし、予定もしていない商店街は、今のままでよい（あまり必要でない）と考える傾向にあります。

NPO 団体、町内会や地域サークル等との連携については、実施までのハードルが高いものの、実際の取組で良い効果が期待でき、更なる連携の強化を図ろうとしている商店街が増加しているものと推察されます。

図表 2-10-4 NPO 団体、町内会や地域サークル等との連携と今後の活動

		今後のコミュニティ活動			合計
		さらに連携を深めたい	今のままでよい	あまり必要でない	
NPO、町内会、地域のサークル等とのコミュニティ活動	行っている	121	86	6	213
	行っていないが今後行いたい	44	19	3	66
	行っていないし、予定もない	30	95	58	183
合計		195	200	67	462



(2) 他商店街との連携

図表 2-10-5 によると、他の商店街との連携の有無にかかわらず、「生活に密着した地域情報の提供」が魅力的な商店街になるために必要なものと考えていることがわかります。

他の商店街と連携している商店街が、魅力的な商店街になるために必要なものは、「生活に密着した地域情報の提供」、「豊かな生活ができる商品情報の提供」、「催事・イベントなどの実施」、「駐車・駐輪場の整備充実」の順となっています。“ハード<臨時的なソフト<より広範で生活に密着したソフト”という重点の置き方がわかります。

その他の項目を見ると、「連携している」商店街では、「駐車・駐輪場の整備充実」が「催事・イベントなどの実施」や「豊かな生活を送れる商品情報の提供」の約 2 分の 1 程度であるのに対し、「連携していないし、必要性も感じていない」商店街では、「駐車・駐輪場の整備充実」が「催事・イベントなどの実施」を上回っています。

このことから、「連携していないし、必要性も感じていない」商店街の方が、商店街の魅力創出にハード整備が必要であると考えている割合が高いといえます。

図表 2-10-5 連携の有無と魅力的な商店街になるために必要なもの

		魅力的な商店街になるために必要なもの								合計
		生活に密着した地域情報の提供	豊かな生活を送れる商品情報の提供	街路灯やカラ一舗装などの環境整備	催事・イベントなどの実施	スタンプやカードサービスの実施	営業日数の増加や閉店時間の延長	大型商業施設の設置	駐車・駐輪場の整備充実	
連携の有無 必要性	連携している	91	56	17	45	16	8	7	23	263
	連携していないが、必要性を感じている	62	32	14	37	7	6	6	23	187
	連携していないし、必要性も感じていない	56	28	11	21	7	4	10	25	162
合計		209	116	42	103	30	18	23	71	612

(注)

1 位	2 位	3 位	4 位
-----	-----	-----	-----



3. 商店街が取り組む連携のポイント

(1) リーダーの育成と外部コーディネーターの協力

「1. 商店街の連携の現状」では、商店街では取りまとめる人材(リーダー)が不足していることが、他商店街との連携を取る上で障害になっていることを見てきました。やはり、商店街としてリーダーの存在は不可欠であり、リーダーが育成されるまで外部コーディネーターの協力を仰ぐことを検討する必要があります。また、外部コーディネーターを他商店街等との結合点とし、共通する事業企画の場を増やしていくことで、他商店街等と交流する機会は自ずと生じます。その結果、商店街内部強化と外部連携強化の課題解決につながります。

しかし、外部コーディネーターの支援はあくまでも側面的なものであり、主体は商店街にあることを忘れてはいけません。

(2) 商店街のソフト面の開発

「2. 商店街の連携に関する情報分析」では、連携をせず必要性も感じていない商店街は、駐車・駐輪場といったハードの充実に努める傾向があり、連携をしていないが必要性を感じる商店街は、催事・イベントなどのソフトの充実に努める傾向があることがわかりました。このことから、他商店街との連携は、イベントなどのソフト事業を共同で行うことが、互いのニーズにマッチするものと思われれます。

一方、高齢者・子育て支援、まちづくり支援、地域安全活動などを行う NPO 団体、町内会や地域サークル等と、商店街は連携を強化していることがわかりました。NPO などとの連携を行っている商店街ほど、さらに連携を深めたいと考える結果となっており、連携を行うことが地域住民のニーズに対応した取組や安心・安全などの取組を行う上で必要になっているといえます。

